

RACE REPORT



SUPER
FORMULA

Round.09 SUZUKA

第9戦 鈴鹿サーキット

2024年11月10日(日)

予選・決勝

天候：曇り 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

予選 6番手 決勝：13位

#39 大湯 都史樹

予選 12番手 決勝：16位

11月8日(金)に開幕した全日本スーパーフォーミュラ選手権の今季最終大会もいよいよ最終日。第9戦の公式予選・決勝レースが行われる11月10日(日)を迎えた。前日の第8戦では、阪口晴南が好走をみせ4位に食い込み、第9戦での表彰台獲得を視野に入れる一方で、大湯都史樹は走

行初日からいまひとつセットアップが良い状況ではなく、第8戦でも苦戦を強いられていた。阪口はさらなるパフォーマンスアップを、大湯はポテンシャルの底上げを目指し、VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは曇り空のもと午前9時15分から行われた公式予選に臨んだ。

QUALIFY 公式予選

11月10日(日) 9:15~9:57 天候：曇り 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'37.079 / #39 大湯都史樹 1'37.629

前日は爽やかな秋空に恵まれていた鈴鹿サーキットだが、11月10日(日)は雲が厚く、気温17度/路面温度19度というコンディションのもと公式予選が始まった。

まずスタートしたA組に臨んだのは阪口。前日は「ピークが出なかった」という予選だったが、第9戦ではその反省を踏まえたセットアップを施し臨んだ。前日からベースセットの良さは変わっておらず、1分37秒819というタイムを記録すると、A組の3番手につけしっかりとQ1を突破してみせた。

続くB組に出走したのは大湯。前日から予選ではドライビングでセットアップの厳しさをカバーし、タイムを引き出していた大湯だったが、この日も状況が大きく変わったわけではなかった。チェッカーに向け1分38秒259というタイムを記録すると、Q1突破ギリギリとなるB組の6番手に。VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGはそれぞれ状況は違えど、2台がそろってQ2進出を果たした。

10分間のインターバルを経て迎えたQ2。前日はQ1からQ2に向けたアジャストに「失敗してしまっていた」阪口は、続々とタイムが記録されていくなか、1分37秒079までタイムを縮め、6番手につけてみせた。

「目標は5番手だったので少し悔しいですが、安定して上位グリッドにつけられたのは良かったと思っています」と阪口は今季最終戦での予選結果に納得の表情をみせた。

一方の大湯は1分37秒629というタイムを記録したものの、ライバルたちのタイムの上げ幅に対しては苦しい結果となり、結果は12番手。中団グリッドにつけた。

「前日よりも下位ですが、パフォーマンスを考えると『まあここだよな』という順位だったと思います」と大湯。不調の原因が特定しきれていないこともあり、苦しい予選となった。



RACE

決勝レース

11月10日(日) 14:34~15:28 天候:曇り 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'42.755 (2L) / #39 大湯都史樹 1'42.899 (14L)

前日同様、4時間30分のインターバルで迎えた第9戦の決勝レース。泣いても笑っても今季ラストレースだ。VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、悔いを残さぬレースにすべく準備を整え、午後2時30分の決勝に臨んだ。午前よりも雲は厚くなっていたものの、気温20度/路面温度25度と気温が下がっているわけではなかった。

スタートでは、阪口はグリッドどおりの6番手につけていく一方、大湯は好スタートを切りふたつポジションを上げ10番手につける。ただ大湯はやはりベースのポテンシャルが苦しい。4周を過ぎる頃になると、後方から#3 山下健太の猛追をうけることになってしまい、10周目にはひとつポジションを下げ11番手となった。

そんななか、10周を終えてピットウィンドウがオープンする。VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの2台のうち、まずは阪口がピットイン。作業を終え猛然とダッシュするものの、序盤後方にいた#37 笹原右京、#64 山本尚貴の先行を許してしまった。さらに翌周にピットインした#5 牧野任祐を一時はかわしたものの、13周目にはあっけなくオーバーテイクを許してしまう。阪口には何かしらの変動が起きてしまっていた。

一方の大湯は、11周を終えピットイン。14番手前後を争う位置からレース後半を戦っていったが、ここからの大湯は防戦一方となってしまう。「シンプルにペースがないのがいちばんの要因です」と大湯は振り返ったが、16周目には#12 三宅淳詞、#14 大嶋和也に相次いでオーバーテイクされてしまった。

ペースが苦しいのは阪口も同様。前日の第8戦では決勝レースで終盤まで好ペースを保っていたが、この日は何かがおかしい。レース後に分かったことだがタイヤの内圧が当初

予定したものよりも高く、タイヤが本来のパフォーマンスを発揮しないばかりか、車高が上がり適切なダウンフォースを生まない状況となってしまうていた。20周目、阪口は#3 山下、#7 小林可夢偉にポジションを奪われ、さらにその後も24周目、30周目にもオーバーテイクを許してしまった。

2台がともに苦しいレースとなってしまったVERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGだが、最後は阪口が13位、大湯が16位でフィニッシュすることになった。前日の期待とは裏腹に、2台がノーポイントで今シーズンを終えてしまった。

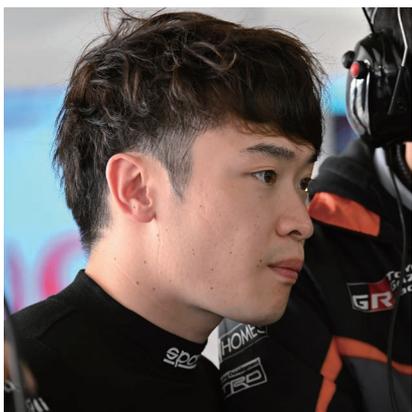
「全然レースをさせてもらえませんでした。こんなことをやっていたはいけない」と阪口。また大湯も「悪い状況しかないレース」と悔しい表情をみせた。

一年を通してみれば、パフォーマンスが高いレースもあった。しかし年間を通じてそれを出さなければならない。チームは強くなって戻るべく、雌伏のオフシーズンを迎える。



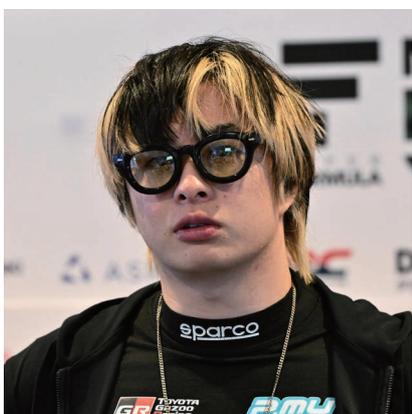
COMMENTS

ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「公式予選では、前日の反省を踏まえて臨みましたが、想定よりもコンディションが良くない状況でした。第8戦よりも良い順位でしたし、安定して上位に食い込むことができたのは良かったです。決勝レースでは前日のペースにプラスアルファの要素を盛り込み臨んだのですが、まったく違うところで問題が出てしまいました。こんなことをやっているはいけませんし、レースを台無しにしてしまいます。クルマのパフォーマンスは前日示したとおりなので、もったいないレースでした。昨年はパフォーマンスは低かったもののゴールはできていました。今年は真逆で、速さはあるのに完走できないレースが多かったです。開幕戦のポールがいちばんのピークでしたね」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「単純にペースがありませんでした。それに尽きるレースになってしまいましたね。予選でもパフォーマンスが低かったですし、第8戦はうまくいったあの順位だったので、今日の予選順位が『ここだよな』という位置でした。週末を通していろいろ取り組んできたものの、良いところは正直なかったです。もちろん課題だったスタートやピット作業などが向上していたのはポジティブですが、とにかくパフォーマンスがなかったですし、原因が何も見つけられない週末だったと思います。次に向けてまた悩むことになってしまいました。ただ完走してデータをとることもできましたし、来季に向けて最初から見直していきたいと思っています」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「今日は2台とも苦しいレースになってしまいました。決勝レースでのロングランのペースがどちらも悪く、残念な一年の終わりになってしまったと思います。今シーズンはもちろん良いときも悪いときもありましたが、安定感がない年になってしまったと思います。チャンピオンを争うチームはその点で常にパフォーマンスを出すことができているし、そのレベルにチームを上げていかなければと思います。シーズンオフはしっかりと課題に取り組み、やり直していきたいと思っています。また強くなって2025年に戻ってきたいですね。一年間、VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGにたくさんのご声援をいただきありがとうございました」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第9戦鈴鹿サーキット 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	53'45.819	
2	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'51.279	5.460
3	8	福住仁嶺	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'52.510	6.691
4	16	野尻智紀	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	53'57.606	11.787
5	65	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	53'58.885	13.066
6	64	山本尚貴	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	54'07.157	21.338
7	15	岩佐歩夢	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	54'08.311	22.492
8	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	54'09.090	23.271
9	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'11.795	25.976
10	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'11.931	26.112
11	50	木村偉織	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	54'13.096	27.277
12	20	国本雄資	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'27.542	41.723
13	38	阪口晴南	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'28.397	42.578
14	37	笹原右京	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'33.773	47.954
15	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'35.433	49.614
16	39	大湯都史樹	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'42.093	56.274
17	19	平良響	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'46.951	1'01.132
18	12	三宅淳詞	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	54'50.460	1'04.641
19	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'51.757	1'05.938
20	53	Juju	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	54'52.648	1'06.829
以上完走							
55	大津弘樹	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	25	54'38.047	6Laps	

ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	36	坪井翔	117.5
2	16	野尻智紀	87
3	5	牧野任祐	86
4	6	太田格之進	75
5	15	岩佐歩夢	63.5
6	8	福住仁嶺	62
7	3	山下健太	48.5
8	64	山本尚貴	41
9	39	大湯都史樹	27
10	7	小林可夢偉	22.5
12	38	阪口晴南	20

チームランキング

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	148
2	TEAM MUGEN	131.5
3	VANTELIN TEAM TOM'S	112.5
4	Kids com Team KCMG	77.5
5	PONOS NAKAJIMA RACING	61
6	KONDO RACING	50
7	VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	42
8	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL	9
9	TGM Grand Prix	3
10	San-Ei Gen with B-Max	3